

平成19年3月期 決算説明会資料

曾田香料株式会社
代表取締役社長 光安哲夫

目次

- . 会社概要
- . 平成 19 年 3 月期 決算概要 (連結)
- . 平成 20 年 3 月期 業績予想 (連結)
- . 中期経営課題 (平成 18 ~ 20 年度) について

.会社概要

会社概要

1) 設立 昭和47年9月 (創業 大正4年4月)

2) 資本金 14億9千万円

3) 事業所 本社 (東京都中央区日本橋小伝馬町)
野田工場 (千葉県野田市)、郡山工場 (福島県郡山市)
大阪支店、札幌営業所

4) 関係会社

連結子会社	岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
持分法適用関連会社	台湾曾田香料(股)、遠東香料(股)
非連結子会社	曾田香料(昆山)有限公司

5) 従業員数 (H19年3月末有価証券報告書基準)

連結	344名
単体	281名

6) 事業内容

フレグランス (香粧品香料)

シャンプー・リンス、石鹸、芳香剤、入浴剤等に使用



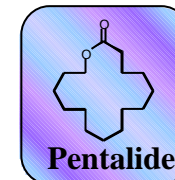
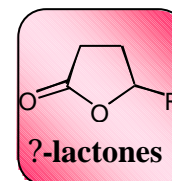
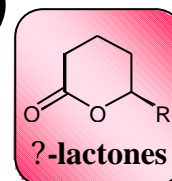
フレーバー (食品香料)

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等に使用



合成香料・ケミカル

- ・ラクトン類、大環状ムスク等のフレグランス・フレーバー-素材
- ・ガス着臭剤(都市ガス・LPG用)
- ・医薬・農薬中間体、電子材料等



平成19年3月期 決算概要 (連結)

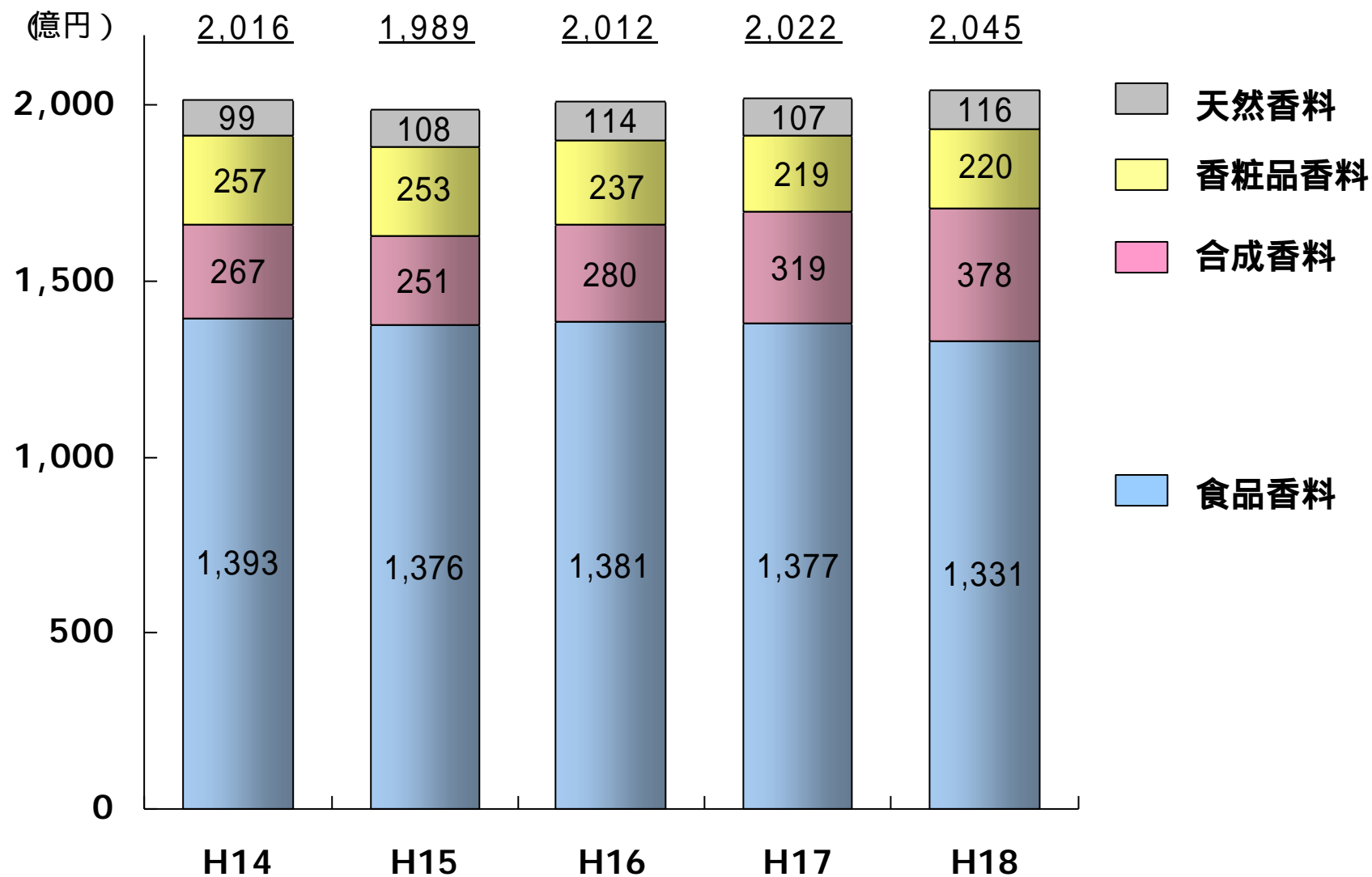
連結業績の概要 (収益)

億円

	前期		当期		増減	
	H18/3	構成比 (%)	H19/3	構成比 (%)	金額	%
売上高	185.0	100.0	181.8	100.0	3.2	1.7%
うち製品売上高	124.7	67.5	124.9	68.7	+ 0.2	+0.1%
売上原価	129.7	70.1	126.2	69.4	3.5	2.7%
売上総利益	55.2	29.9	55.6	30.6	+ 0.4	+0.6%
販管費	38.4	20.8	37.0	20.4	1.4	3.5%
営業利益	16.9	9.1	18.5	10.2	+ 1.6	+9.8%
経常利益	17.2	9.3	18.9	10.4	+ 1.7	+10.2%
税引前当期純利益	17.0	9.2	19.2	10.5	+ 2.2	+13.0%
当期純利益	10.5	5.7	12.1	6.6	+ 1.6	+15.3%

国内香料市場推移 (製品販売金額ベース)

(日本香料工業会 販売統計より)



部門別概況 (1)

フレグランス

国内向けでは主力のシャンプー・リンス等の頭髮用化粧品香料や消臭・芳香剤が回復し、アジア向け調合香料の輸出も伸び、全体で増収

億円

	前期 H18/3	当期 H19/3	前期比	
			増減額	増減率
売上高	16.3	16.7	+ 0.4	+2.3%
うち製品	12.1	12.8	+ 0.7	+5.9%
うち商品	4.3	3.9	0.4	7.8%

国内香料業界の製品前年比伸長率 (H18年販売金額ベース)

国内平均

フレグランス + 0.4%

部門別概況 (2)

フレーバー

食品香料は主力の飲料用が天候不順の影響もあって伸び悩み、商品を抑制したことから全体で減収

億円

	前期 H18/3	当期 H19/3	前期比	
			増減額	増減率
売上高	94.1	85.7	8.4	9.0%
うち製品	49.5	47.7	1.8	3.7%
うち商品	44.6	38.0	6.6	14.9%

国内香料業界の製品前年比伸長率 (H18年販売金額ベース)

国内平均

フレーバー 3.3%

部門別概況 (3)

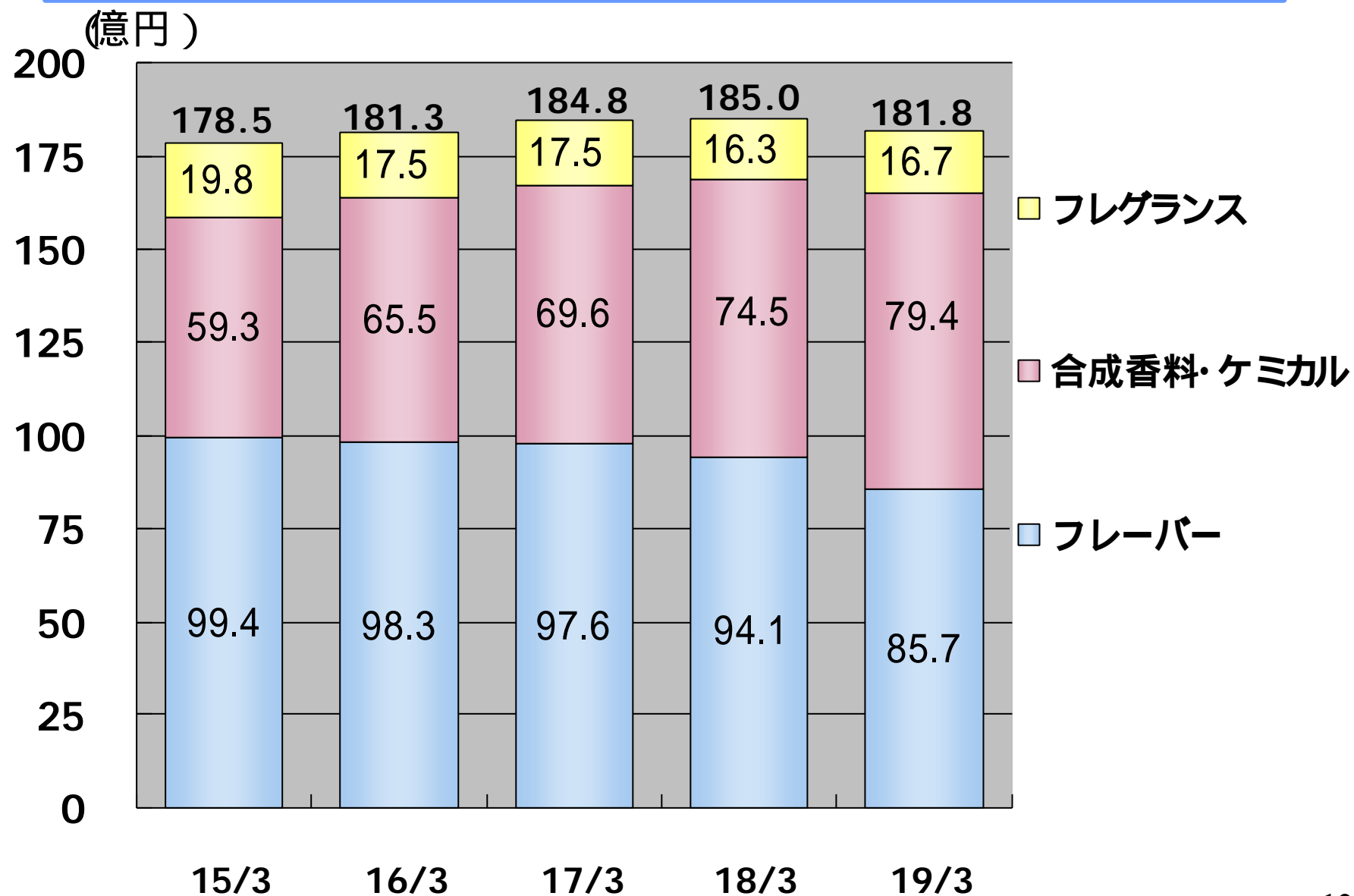
合成香料・ケミカル

合成香料は堅調に推移し、
ケミカルも化成品や着臭剤が伸び、全体で増収

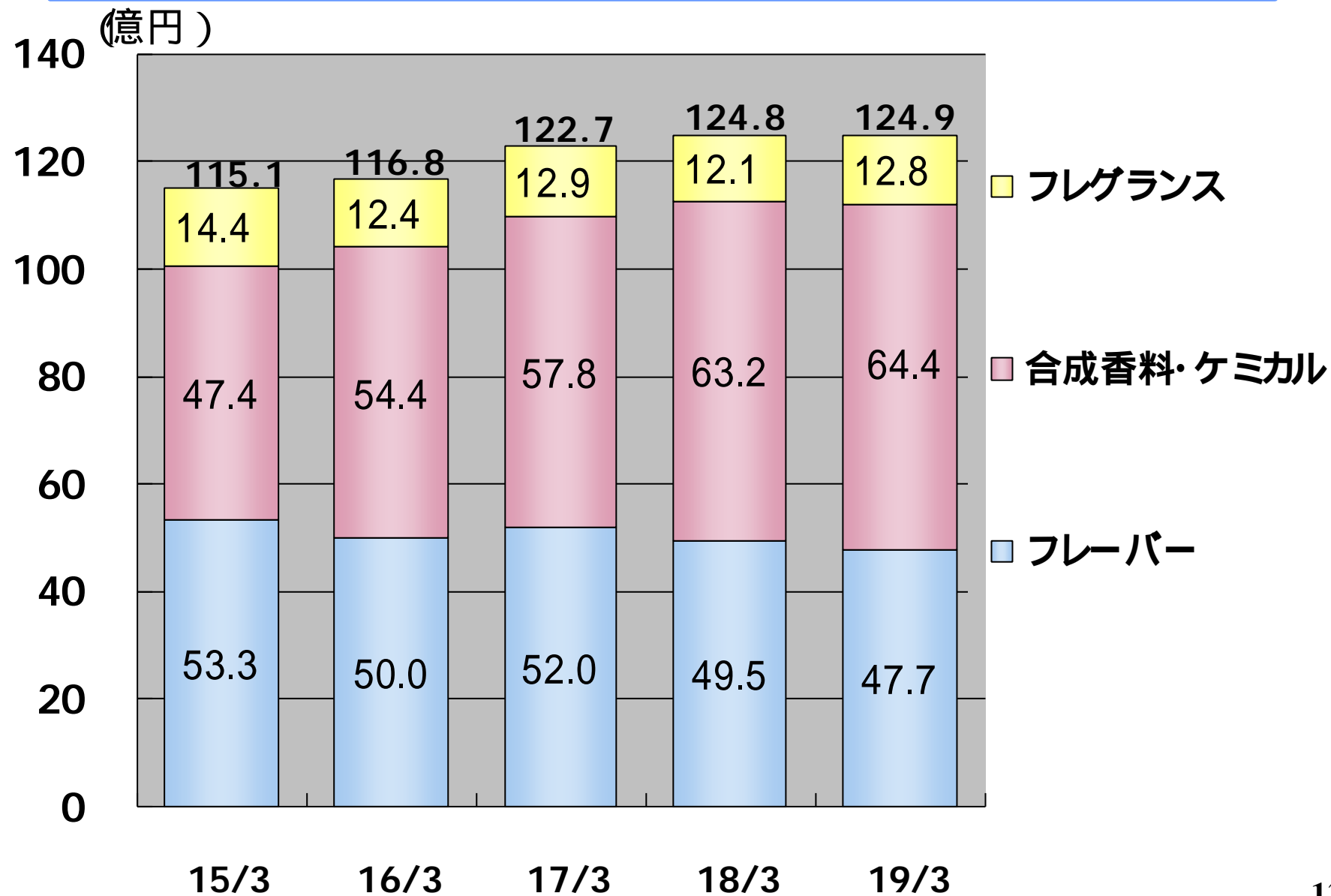
億円

	前期 H18/3	当期 H19/3	前期比	
			増減額	増減率
売上高	74.5	79.4	+ 4.9	+6.6%
うち製品	63.2	64.4	+ 1.2	+2.0%
うち商品	11.3	15.0	+ 3.7	+32.4%

部門別売上高推移



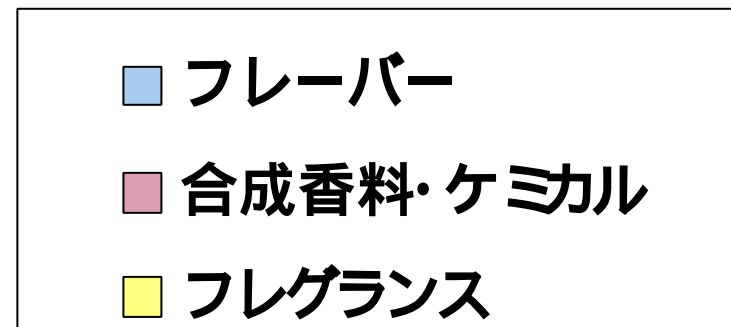
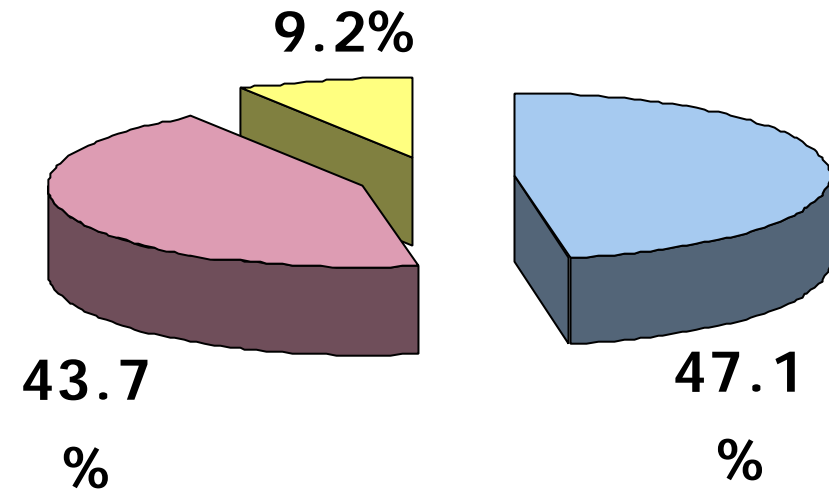
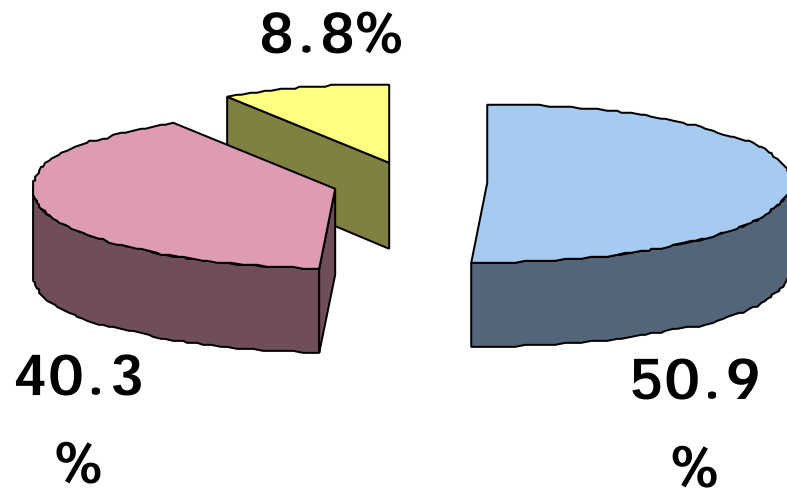
部門別売上高推移 (製品)



部門別構成比率

H19/3

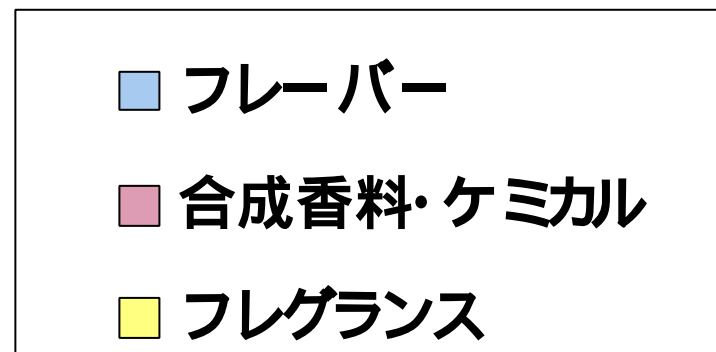
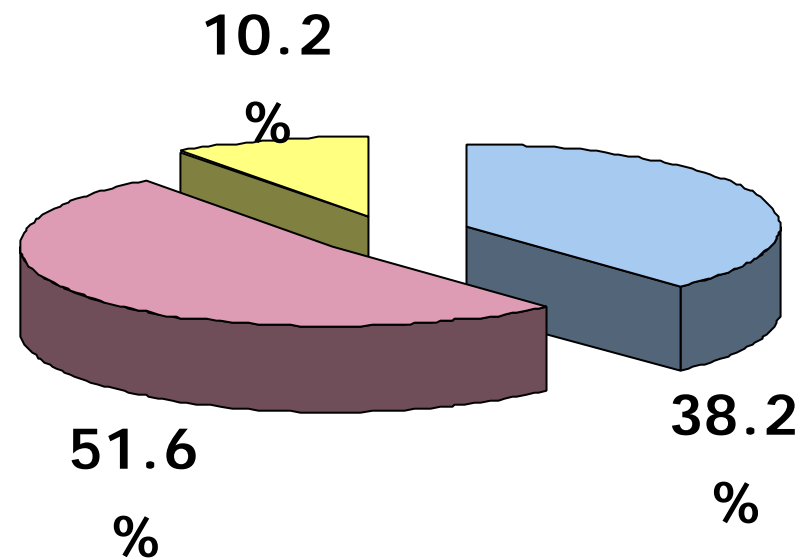
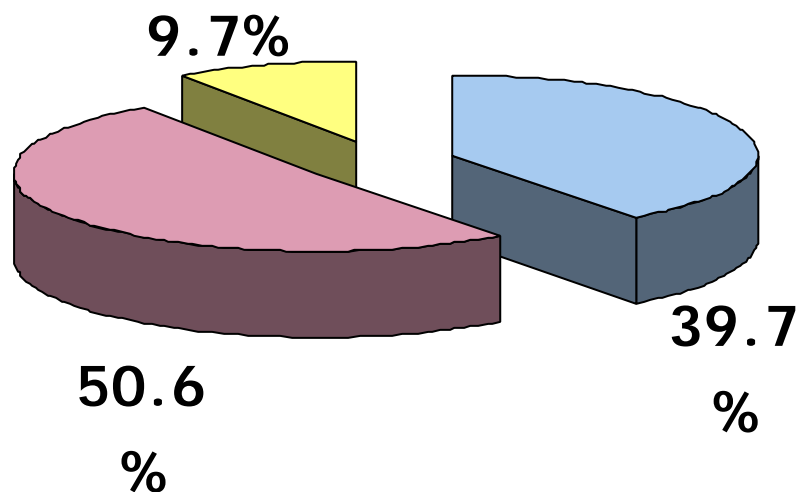
H18/3



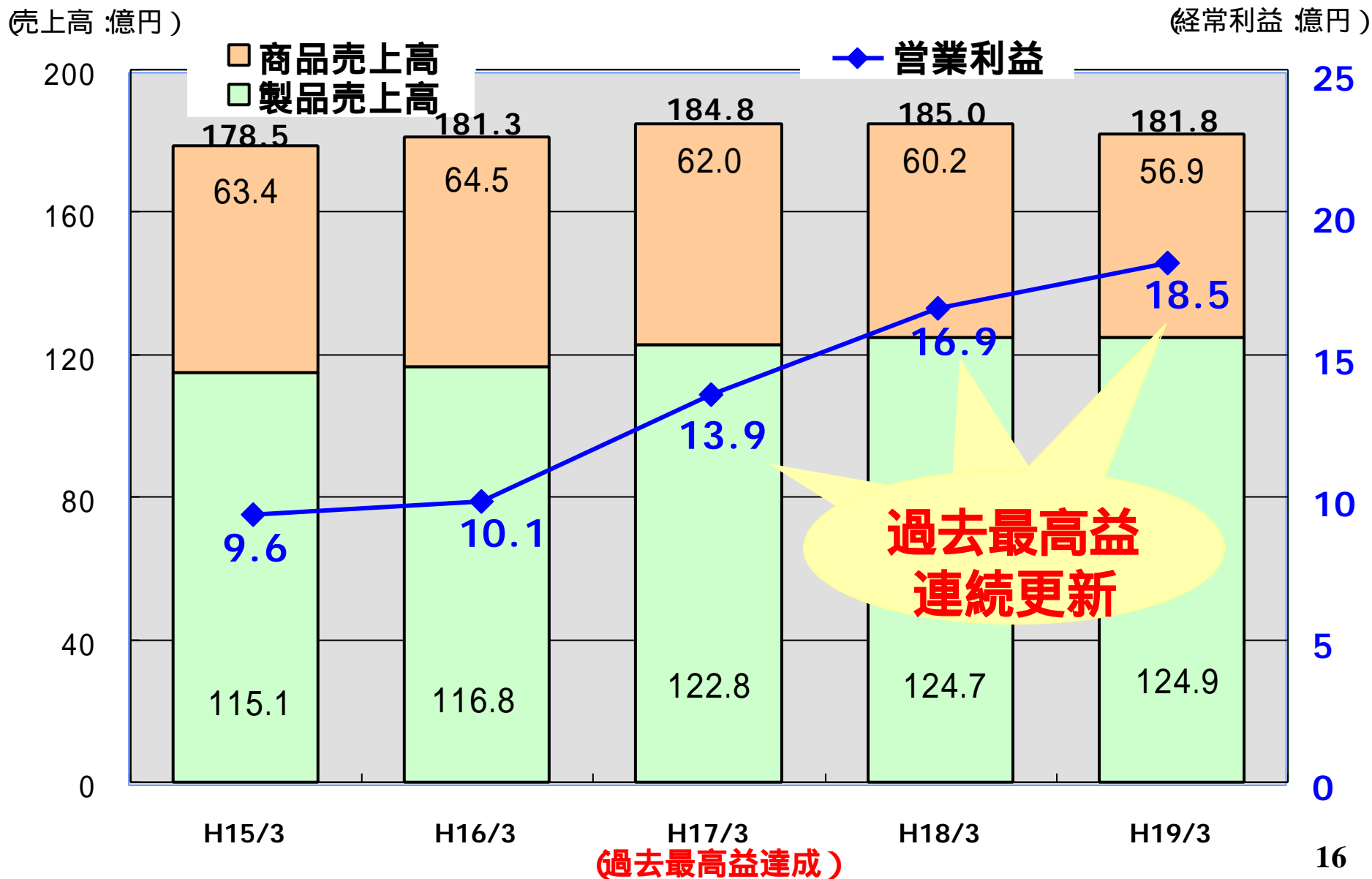
部門別構成比率 (製品)

H19/3

H18/3

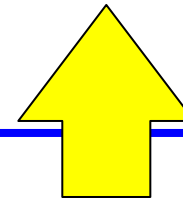


製品・商品売上高および営業利益推移



営業利益変動要因分析

H18/3	H19/3	増加額
16.9億円	18.5億円	1.6億円



増益要因

収益構造の改善による増益

付加価値の高い自社製品の拡販による収益改善

コストダウン、生産効率向上による収益力強化

原料購買VA、製造原価 経費削減等

連結業績の概要 (財政状態)

億円

	H18/3	H19/3	増減	
総資産	169.1	179.6	+10.5	(+6.2%)
純資産	82.9	93.1	+10.2	(+12.3%)
1株当たり 純資産	827.89円	931.01円	+103.12円	(+12.5%)

	H18/3	H19/3	増減	
ROE	13.5%	13.7%	+0.2	ポイント
自己資本比率	49.0%	51.8%	+2.8	ポイント
1株当たり 当期純利益	103.39円	120.75円	+17.36円	(+16.8%)

貸借対照表 (資産の部)

億円

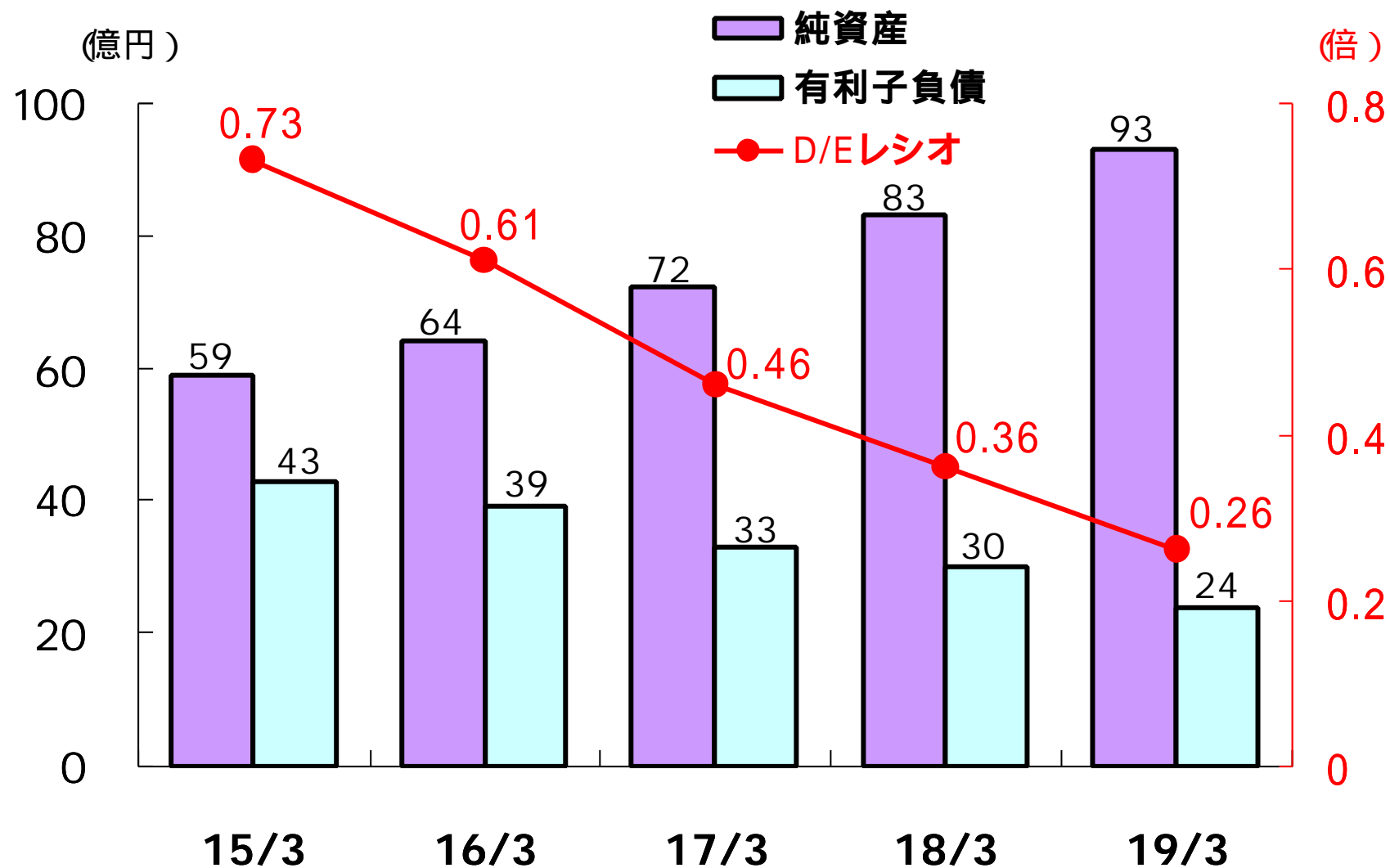
	H18/3	H19/3	増 減	特記事項
資 産 合 計	169.1	179.6	+ 10.5	
流動資産	101.3	111.1	+ 9.8	現預金・売掛債権・棚卸資産の増加
有形固定資産	46.9	48.6	+ 1.7	設備投資に伴う増加
無形固定資産	1.3	0.8	0.5	ソフトウェアの償却
投資その他	19.6	19.0	0.6	投資有価証券の減少

貸借対照表 (負債 純資産の部)

億円

	H18/3	H19/3	増 減	特記事項
負 債 合 計	86.2	86.6	+ 0.4	
流動負債	58.2	59.2	+ 1.0	仕入債務の増加 借入の減少等
固定負債	28.0	27.3	0.7	退職給付引当金の減少
純 資 産 合 計	82.9	93.1	+ 10.2	利益剰余金の増加等
(うち利益剰余金)	(51.1)	(61.7)	(+ 10.6)	
有利子負債残高	30.0	24.0	6.0	収益伸長により有利子負債を圧縮
D / Eレシオ (倍)	0.36	0.26	0.10	

純資産・有利子負債とD/Eレシオ



キャッシュ・フローの状況

億円

	H18/03	H19/03	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	14.7	19.0	+ 4.3
投資活動によるキャッシュ・フロー	8.2	8.7	0.5
フリー・キャッシュ・フロー	6.5	10.3	+ 3.8
財務活動によるキャッシュ・フロー	4.0	7.3	3.3
現金及び現金同等物の増加額	2.4	3.0	+ 0.6
現金及び現金同等物の期末残高	20.9	23.9	+ 3.0

	H17/3	H18/3	H19/3
自己資本比率 (%)	43.8	49.0	51.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	46.5	68.0	57.3
債務償還年数 (年)	2.1	2.0	1.3
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	53.1	59.6	124.9

設備投資・減価償却費・試験研究費

	H18/3	H19/3	増減
設備投資	9.0	8.2	0.8
減価償却費	6.9	6.8	0.1
試験研究費	10.3	9.9	0.4

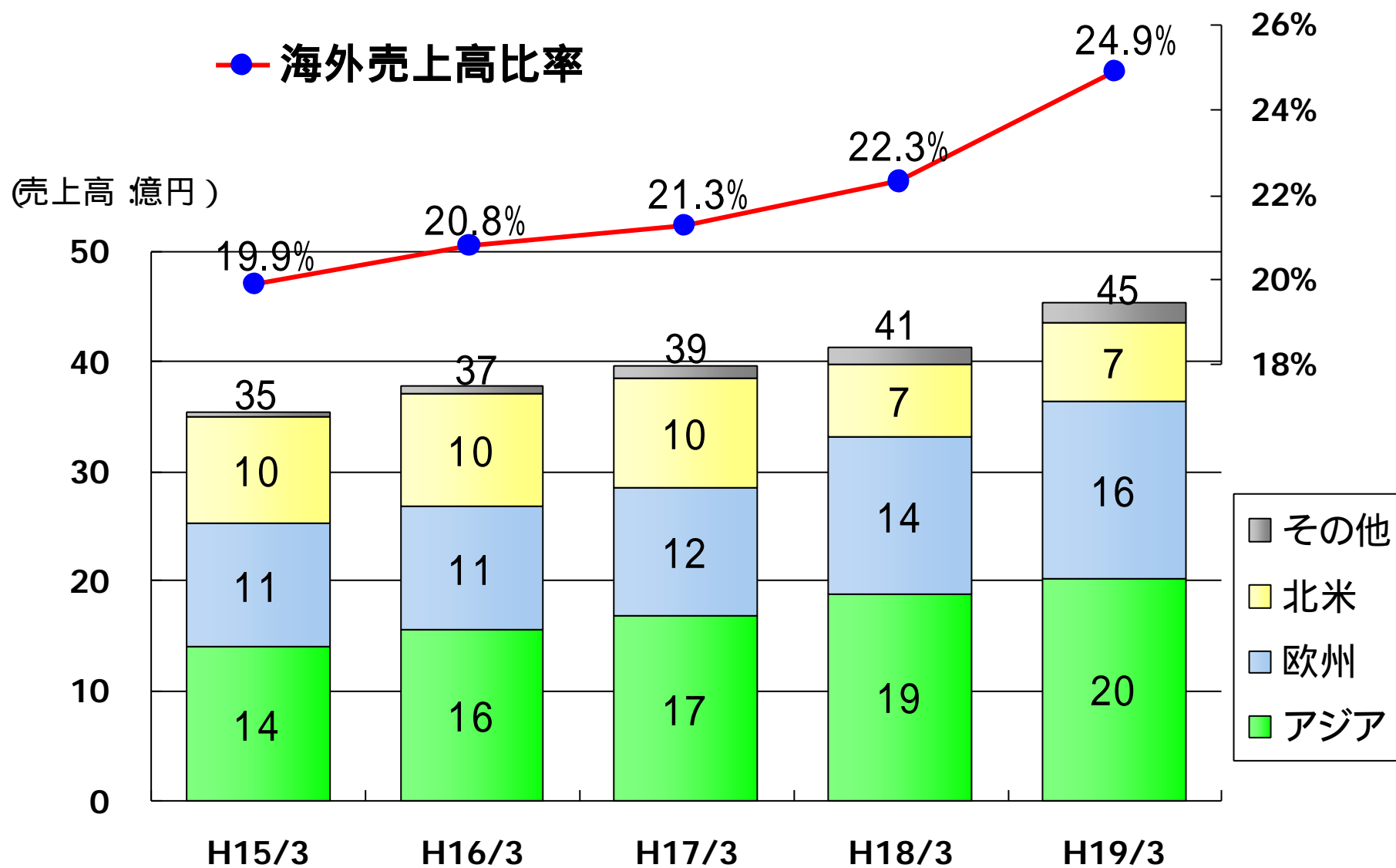
億円

主な設備投資

野田工場隣接土地取得

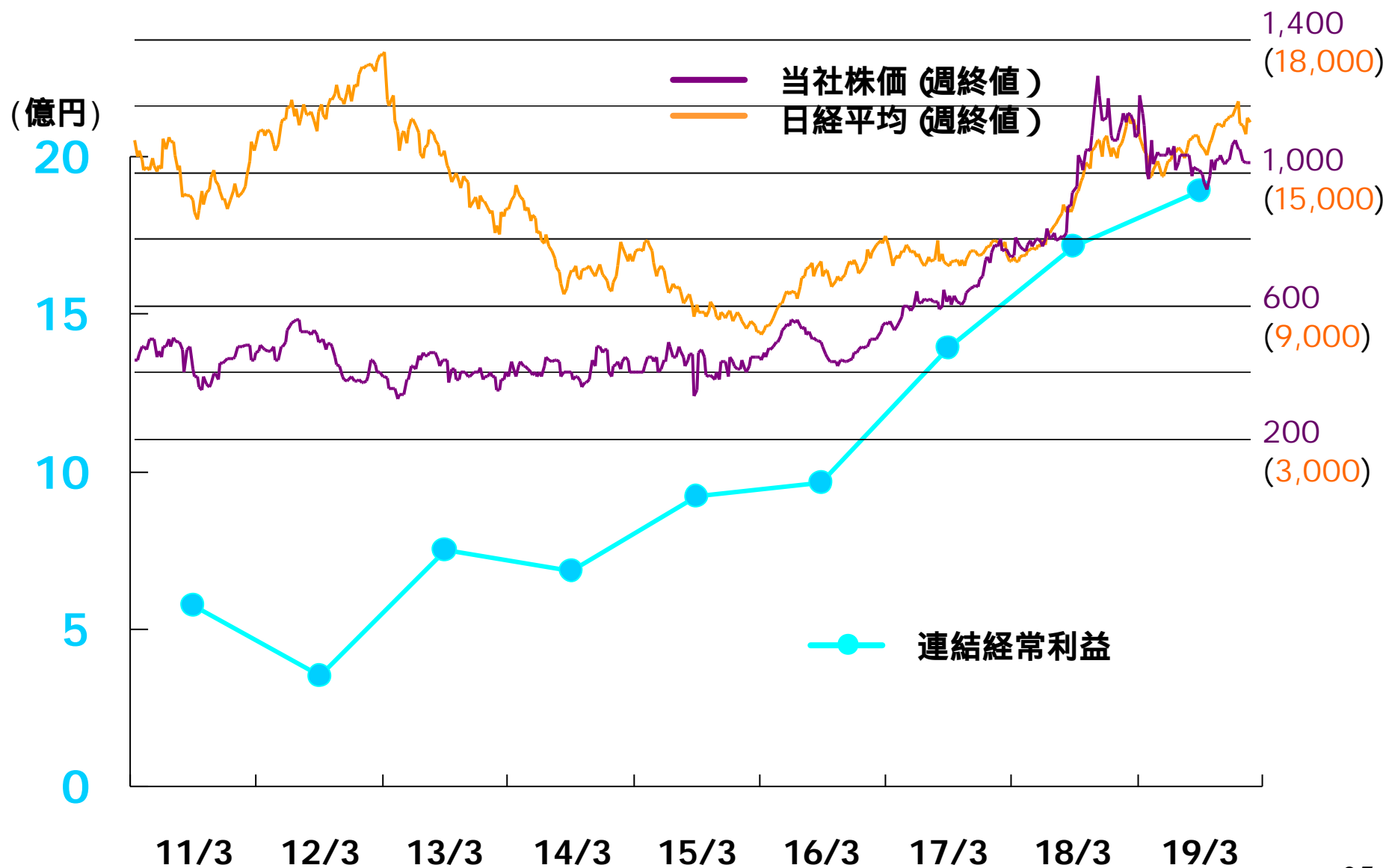
4.2億円

海外売上高の伸長



経常利益 (連結) と株価推移

当社株価 単位 円
日経平均 単位 円



.平成 20年 3月期 業績予想

平成20年3月期 市場環境

- フレグランス** 業界の販売金額は微減もしくは横這い傾向
依然厳しい環境
- フレーバー** 業界の販売金額は横這いもしくは微減傾向
ユーザーの価格引下げ要請が厳しく競争
激化
- 合成香料・
ケミカル** 合成香料は海外市場が増加傾向
ケミカルは、化成品・着臭剤は横這いもしくは
増加傾向、電子材料市場は増加傾向

平成20年3月期 業績予想

億円

	H19/3	H20/3(予想)	増減率
連結 売上高	181.8	187.5	3.1%
営業利益	18.5	19.8	6.9%
経常利益	18.9	20.0	5.7%
当期純利益	12.1	12.5	3.5%

.中期経営課題 (平成18～20年度)に ついて

事業環境

- ・ユーザーの最終製品市場 (香粧品・食品) の成熟化
- ・少子高齢化が進行する一方、消費者の欲求の高度化、高機能・高品質製品への欲求の強まり
- ・食の安全・安心および健康志向の一層の高まり
- ・価格競争が厳しい中で、新製品開発力が求められ、益々レベルの高い競争へ



顧客ニーズを的確に捉えた各種製品の上市

高付加価値調合香料や先端技術を駆使した機能性香料素材の開発

魅力ある新製品の開発とスピーディーな提案

品質管理、トレーサビリティ体制の一層の強化

中期経営課題 (平成 18 - 20年度)

1) 全社方針

法令を遵守し、安全・衛生・防災・環境保全に努め、CSRの推進を企業経営の最優先課題として取り組む

2) 中期目標：

ユニークで存在感のある香料会社として
新たなステージへ飛躍

3) スローガン： **Innovation by Aroma**」

- 香料による新しい価値の創造 -

数値目標 (平成20年度)

	実 績 (H18年度)	中経目標 (H20年度)
営 業 利 益	18.5億円	20億円以上
売上高営業利益率	10.2%	10%以上を維持
R O E	13.7%	11%以上を維持
R O A	10.6%	11%以上
D / E レ シ オ	0.3倍	0.4倍以内を維持

* ROE :自己資本当期純利益率 ROA 総資産営業利益率

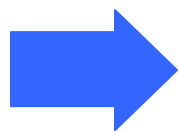
* 資本利益率の各資本は期首 期末の平均

中期経営課題 施策

1. 事業構造の改革と事業拡大

1) 収益基盤の強化、新製品開発力の強化

- 3部門ごとに「選択と集中」を実行し、持続的な事業拡大へ
- 研究開発体制を、最終製品を対象としたカテゴリー別グループ編成に変更し、「顧客ニーズへの対応力」を強化



国内シェアアップ・自社製品比率の向上と 海外市場の開拓 拡販

2) 事業部門別課題

フレグランス

国内市場縮小傾向の中、国内外のターゲットを絞り込み、
自社製品の売上を拡大

フレーバー

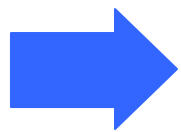
営業と研究開発とが一体となって、重点ユーザーの
開発コンセプトを的確に把握し、既存フレーバーの拡販と
新規調合香料を開発、上市

合成香料・ケミカル

合成香料のコスト競争力強化と拡販
ケミカル事業の拡大

3) 中国 (昆山) 事業の拡大

- 曾田香料 (昆山) 有限公司の生産・販売体制の強化
- 全社プロジェクトを設置して、経営資源を重点投入



フレーバー、フレグランス、たばこ用調合香料の拡販

2. 企業体質強化

1) 事業体質の更なる強化

前中経の成果を引き継ぎ一層の体質強化に努める

比例費削減 購買VA、プロセス改善によるコストダウン

労務費の適正化 :各部門における要員規模・年齢分布の
適正化

資本効率化 :有利子負債削減、効率的な設備投資の実施
在庫水準の改善と在庫管理強化

2) 人材育成の強化

- 社員の意識改革と 第一線営業マンの営業力強化
- 『Innovation by Aroma 』に沿った創造力あふれる
組織風土の醸成と組織の活性化

これら課題 施策の確実な実施により

ユニークで存在感のある香料会社として
新たなステージへ飛躍

本資料中の平成20年3月期業績予想、見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社

財務部

TEL : 03 - 5645 - 7340 (代)

FAX : 03 - 3668 - 6289 (代)